

# 久留米の自然



久留米の自然 108号 2010年4月1日

**カワウ** 撮影日：2010年1月10日 撮影者：高山美子 撮影場所：筑後川中流域  
朝倉市床島堰より約100メートル下流 カワウ約300羽 白サギ約20羽

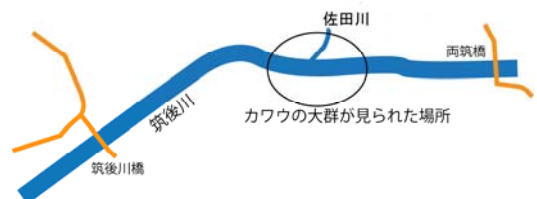
## カワウの大群、筑後川で食餌

高山 美子

2010年1月10日10時頃、自宅庭にいた時、筑後川上空に見なれない鳥の群れを発見した。すぐカメラを持ち、車で追いかけた。大刀洗町西原の方向に飛んでいたの、上流に向かって進み、着水した場所で、撮影。首が長くカワウであると思ひ、その動きに注目。上空に見張り役のカワウが3羽くらい、まわりの様子を警戒して飛んでいた。水面上にいるのは、右や左に足で蹴って、水しぶきを上げ、水中に潜って、えさをとっているのも相当数いるようだ。約30分ぐらい後、3つの群れに分かれて、上流方向に飛び去って行った。昨年15羽くらいの飛んでいるのは見たが、このようなおおきな群れは、初めて見る光景だった。

西原堤防にいた老人に聞いてみると、今年に入って、このような大群は、初めてだと言っていた。内水面漁協の会員さんは以前から小魚が少なくなるのを心配して、ロケット花火を朝方、カワウの群れに向けて追っ払っていたのを私は目撃したが、大きな問題だ。

### 地図



## 高良川流域のキノコ (その10)

角 正博

今回はコツブタケ科から紹介します。

20. コツブタケ (小粒茸) *Pisolithus tinctorius*

コツブタケ科も、コツブタケ属コツブタケを、7月下旬～8月下旬にかけて、高良山の尾根筋の遊歩道の開けた路傍、高良川中流の正源寺公園の裸地でたまに見ることができます。子実体の基部は、堅い偽柄があったり無柄であったり、個体によって雰囲気が違う場合があります(コツブタケ *P. tinctorius* f. *tinctorius*、ナガエノコツブタケ *P. tinctorius* f. *turgidus*、タマコツブタケ *P. tinctorius* f. *pisocarpus*と細かく分けることもあるようです)。頭部は淡黄褐色の類球形～洋梨形、次第に亀甲状の条溝ができます。成熟すると薄い殻皮が剥がれ、頂部より崩れてゆき内部を露出します。内部(基本体)は幼菌では無数の白色の小塊粒の区画で満たされていますが、小塊粒は急速に上部から黄褐色さらに黒褐色となって崩壊していき黒汁を出し、やがて水分を失って茶褐色の粉状の胞子塊となります。和名はこの内部の小塊粒に由来します。種小名の「*tinctorius*: 染色用の」は、胞子が成熟するにつれて上部から黒汁を出すことによります。

次に、ニセシヨウロ科ニセシヨウロ属を紹介します。高良川流域には、ヒメカタシヨウロ *Scleroderma areolatum* やツチグリニセシヨウロ *Scleroderma geaster* の他、ニセシヨウロ? *Scleroderma citrinum*? やニセシヨウロ属の1種 *Scleroderma* sp. [ツチグリニセシヨウロに似るがやや小さめの中型で、殻皮が星形に裂開しないもの。8月下旬に杉谷の林道脇の土崖に散生。] 等、数種が生育しています。なお、ニセシヨウロ属のうち、「かたわ」という表現が含まれるツチグリカタワタケとザラツキカタワタケという和名については、不適切ではないかという意見が出され、ツチグリカタワタケをツチグリニセシヨウロ、ザラツキカタワタケをシヨウロダマシと改名することが提案されました(吉見、2002年、日本菌学会報43)。しかし、その後、上記2種の出典を探ると、それぞれツチグリカタワタケ(土栗硬皮茸)とザラツキカタワタケ(ザラツキ硬皮茸)であったことが明らかになり、ツチグリニセシヨウロとシヨウロダマシを別名とするのが望ましいという提案(「ニセシヨウロ属きのこ2種の正しい和名」、勝本、2007年、日本菌学会報)がなされています。したがって、ここでもこの提案に従うことにします。

21. ツチグリカタワタケ (土栗硬皮茸) : ツチグリニセシヨウロ (土栗偽松露) [ツチグリカタワタケを改称] *Scleroderma geaster* (*S. polyrhizum*)

子実体は大型で扁球形～類球形、殻皮は厚く、幼菌では表面がささくれ立ったり、鱗片状だったりしますが、熟すと星形に裂開します。稀菌とされているようですが、高良山やみやま市清水山では比較的良好に見られます。高良川流域では、林道や遊歩道の脇の土崖に7月上旬～10月頃まで見られます。胞子には針状と網目状隆起がまざり、網目状隆起は不明瞭(球形で径10μm前後、刺はなく網目状隆起?)です。



ツチグリニセシヨウロ

ひととき	動物笑い話 トキの日	その52 米田 豊
		<p>「平成22年2月22日は2が5つ並び、結婚届けを出す人や日付印や記念切符を求める人が多かったそうよ」「2月22日はネコの日だから美味しいエサをあげたわ」「石川県のある高校では毎月22日をトキの日として啓蒙・保護活動をしているそうよ」「トキって、あの特別天然記念物の鳥?」「そうよ、石川県にはかつてトキが生息していたので、分散飼育のためについ最近佐渡からいしかわ動物園に2ペア送られてきたの」「トキと22日とがどう関連するの?」「トキの学名がニッポニア・ニッポンだからとか」「野生のトキが日本から姿を消した時、時すでに遅しと思ったけれど、今は繁殖に心ときめくね」</p> <p>※2月9日はフグ、3月5日はサンゴ、3月8日はミツバチの日です。長兄は平成5年5月5日が55歳の誕生日でした。</p>

## 郷土の樹木10 コナラ

## 猪上 信義

暖帯から温帯にかけての日当たりのよい山地に生育する落葉高木で、樹高は10~15m、胸高直径20~40cm、稀に60cmに達します。樹皮は灰白色で縦に割れ目ができます。葉は互生、倒卵状長楕円形で、長さ7~14cm、縁には鋭い鋸歯があり、基部には1cm程度の柄があります。雄花穂は5月ごろ、新枝の下部につき、長さ6~10cmほどの黄色の紐状で目立ちますが、雌花穂は枝の先端につき、あまり目立ちません。堅果は楕円形で径8~12mm、当年の9~10月頃に熟します。日本の暖帯から温帯下部にかけて自生し、朝鮮半島や中国にも分布します。常に十分な光が必要で、土層の深い場所でよく成長しますが、乾燥地にも耐えるので、天然林では尾根部に見られることが多いようです。

材は各種器具材、薪炭材、シイタケ原木などに利用します。またタンニンの多い樹皮は褐色の染料としました。堅果(いわゆるドングリ)にもタンニンが多く、そのままでは食べられませんが、縄文時代はもとより、近世でも飢饉の時には水にさらしてデンプンを採り、食用としました(岐阜県飛騨地方では近年までその風習が残っていたそうです)。最近では環境保全林や自然林を演出するための緑化木、庭園樹としても利用されます。

久留米市内では日当たりのよい林内及び林縁で普通に見られますが、特に市南部の飛岳や藤田浦にはまとまったコナラ林が見られます。これらは元々シイなどの常緑林であったものが、伐採や下草採取、火入れなどが繰り返されて、萌芽力の強いコナラを中心とした落葉林に代わったものです。私たちの祖先が生活のために利用してきた里山林の代表的な姿ですから、放置されると元のシイやカシなどの常緑林に戻ります。

別名をハハソといますが、語源は一般には不明とされています。しかし私が推察するに、ハハというのは神のことを意味する古語ですし、ソというのは麻すなわち布や紙の原料としたものにあてた名前なので、古来この木の皮を神事に用いた

名残では、と考えています。(もちろん一般に認知された説ではありません。)

コナラは生育環境や分布域が広いいため、いろいろな変異があります。また近縁の種にミズナラ、カシワ、ナラガシワなどがあり、それぞれが似通った環境に生えていて、しかも簡単に交雑するため、様々な中間型がみられます。県内では福津市津屋崎の東郷公園の低木林に行くとそれを実感できます。ここで葉やドングリを見て、類似関係を識別ができれば、あなたはりっぱな植物ハカセです。



## 生き物に魅せられて その46

## シロハラの巻

松永紀代子

久しぶりに風邪をひいて、今年の冬は寝込んでしまった。窓の外の青空を眺めながら、あ~こんなに良い天気なのにと恨めしかった。と、そこへシロハラがやってきた。庭にいつているのだ。

秋の初めは、シャリンバイの茂みに入って、実をもぎっては、少し離れた植木鉢の縁にピョンとのっていた。シロハラが大陸に帰った頃、この植木鉢からは、シャリンバイの新芽が何本もでていた。冬になってからは、植え込みの下あたりをうろついていることが多い。

うん? 彼のいる地面がモコモコと動いている。モグラだ。シロハラがキッと地面を睨み、パクッと何かを捕まえた。シロハラはモコモコの上でまたあちこち睨んでいる。

そういえば、先日もシロハラの下の地面は動いていた。モグラが穴を掘ると、その坑道にミミズなどが落ちてモグラの餌となるとは、絵本にもあったが、何も下に落ちるとは限らないのだ。飛び出すやつだっている。シロハラはそんなことを知っていてモグラを利用していたのだ。

たまには、家でぼ~と庭を眺めるのも良いのかもしれない。



**外来生物 雷魚****河内 俊英**

主に湖や池、河川に生息する捕食性の淡水魚で、一般に雷魚(ライギョ)と呼ばれている外来魚について紹介する。正確にはカムルチーとタイワンドジョウの2種を同じ名称で呼んでいる。久留米市周辺で見られるのは、カムルチーであるが、筑後地域ではライギョあるいはタイワンドジョウと呼ばれている。カムルチーの体長は最大90cm程度。原産地はアジア大陸東部で、日本では、北海道を除くほぼ全土に生息する。日本には1923-1924年頃に、朝鮮半島から奈良県に持ち込まれた。口は大きく、下顎が上顎よりも前に突き出ており、鋭い歯が並ぶ。空腹になると見境なく動くものを狙うことから、飼育下でも飼い主にしばしば大怪我を与えることがあり、取り扱いには注意が必要である。空気呼吸ができるため水中に溶存酸素が少ない劣悪な水環境でも生存できる。



カムルチー

食性は基本的に魚食性だが、他にもエビ・カニなどの甲殻類、昆虫、カエルなどのほかに、時には水鳥のヒナやネズミなどの小動物など幅広く捕食する。水底にじっと潜み、水中や水面を通りかかる獲物に飛びかかる待ち伏せ型捕食者である。カムルチーは湖沼や流れの緩やかな河川に生息し、繁殖時期は5~7月で、産卵数は1,300~15,000で年1回~数回産卵し親が卵や稚魚を保護する性質があることから稚魚の生存率は高い。生息可能な温度は、0~30℃で生息可能であることから、日本全国に分布可能である。

ヒトの病気とのかかわりでは、寄生虫の顎口虫症の原因として、ライギョの刺身から感染することがあり、顎口虫の幼虫が生存している魚の(筋)肉を食べることによって発生する。ヒトの体の中に入った幼虫は、胃の壁を食い破って肝臓に達し、その後は体内を自由に動き回り、身体の表面に近い部位に移動することにより皮膚に顎口虫症特有の移動性限局性腫脹の皮膚病変が出現する。

**春の七草摘み****橋田 沙弓**

平成22年1月6日、高良内の青峰保育園の子どもたちに春の七草を教える機会があった。私は子どもたちと共に列に加わり、花の谷周辺の田んぼに向かった。

私は子どもたちのあどけない表情をみて、大人になっていつの間にか忘れていた子どもの頃を思い出した。幼い頃、昭和21年の春であった。春の七草を摘む余裕はなかった。

しかし、父親が戦地から復員して、鶏小屋に数羽のメンドリと1羽のオンドリを飼っていた。裏庭の畑にはびこるヒヨコグサを私は手伝いで摘み、にわとりにえさとして与えていた。それがハコベであると知ったのは後のことである。

今になって思うのは、食べられる野草を知っていたら、どんどん摘んで食べて野草の有難さを実感したかもしれない。東南アジアの戦地では兵士たちは食べ物がなく、スベリヒユをゆでて、飢えをしのいだという体験を聞いている。

牧野富太郎植物記の中に、春の七草について述べられているので紹介する。

むかしの人は、正月七日の朝に春の七草を摘んできて、かゆに炊き込み、七草がゆとして祝う慣わしをもっていた。この七草の行事は、もと宮中で行われたもので、平安時代初期に始まったと言われている。正月七日に宮中内膳司から七種の野菜をあつもの(吸い物)として天皇に奉ったという。

この摘み草は神事、つまり、神聖な儀式の一つ

で、むかしは主として大宮人たちが摘み草を行ったのである。

百人一首にも、光孝天皇の

君がため春の野に出でて若菜つむわがころもで  
に雪は降りつつ

という皇子だったころの御歌があり、この七草摘みの有様をうたったものである。

この七草摘みの行事はもともとは古代中国からきたもので、正月七日に春の七草を摘み、これを神前に供えてから食べれば、その年は病気に罹らないという言い伝えから出たものである。古代中国では春の七草をあつもの(吸い物)にして食



セリ (高良内・小笹池の湿地)

べていたようであるが、わが国では、室町時代から、かゆに炊き込むようになった。はじめ宮

中の行事であったこの行事もしいに、民間でも行われるようになり、江戸時代には、庶民のあいだでもごく普通の風習となった。しかし、民間では、この行事は神事ではなく、摘み草のために野に出て遊ぶという新春のレクリエーションとなった。

春の七草とは、そのむかし四辻左大臣という人がうたった歌に出てくる七種の草がそれだと信じられている。

せり、なずな、御行(おぎょう)、はこべら、仏の座(ほとけのざ)すずな、すずしろ、これぞ七草

つまり、春の七草とは、セリ、ナズナ、オギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロの七種である。オギョウとは、ホウコグサのことである。ホウコグサは俗にハハコグサ(母子草)とも呼ばれる。ハコベラとはハコベのことである。ホトケノザは現在はコオニタビラコのこと、スズ

ナはカブ、スズシロはダイコンのことである。スズナ、スズシロは畑で栽培したもので、その他の草は野原で集めたものである。

正月はまだ、寒く、七草も芽を出したばかりで、若菜としてむかしは貴重なものだった。一年のうちでいちばん早い初春の行事だった。

江戸時代の寛政のころの川柳に、

摘み草のはしりがくると松がとれ

というのがあった。そのころの慣わしでは、正月七



ナズナ (高良内・花の谷田んぼ)

日に門松をとることになっていたので、七種がゆに入れる草を集めに、摘み草にいくよう

になると、門松が取れるという意味である。

七種がゆの慣わしは、明治、大正のころまでは、残っていたが、昭和になると、しだいにこの慣わ



ホウコグサ (ハハコグサ)

(柳坂ハゼ並木横植木畑)

しはすたれ、七種の草を入れたおかゆをつくる家は少なくなりました。今日

では七草を集めることもたやすいことではなくなりました。

ちなみに、伝統行事を体験しようと実施された野外での七草摘みは、元気な子どもたちと先生たちによって、ナズナ、ハハコグサ、ハコベ、コオニタビラコなどが集められ、翌日、青峰保育園では子供たち全員が七草がゆを味わったという。

<b>例会報告</b>
-------------

<b>第375回例会 2009年高良山キノコ観察会報告 角 正博</b>
--

去る2009年12月6日に第375回例会高良山キノコ観察ときのご汁会を行いました。久留米市生産流通課との共催で四季の森ふれあい教室を兼ねていますので、観察ルートも竹の子コースを上り、奥の院を回って森林公園で昼食、帰りはつつじ公園から菖蒲池、後谷コースをたどって下るコースで行いました。今回も前年に好評を博した「高良山用きのご観察ビンゴ2009年改訂版」(製作:角)を用いて、なるべく多くのキノコと出会うことを観察会の基本としました。参加された皆さんは、「きのご観察ビンゴ」で一段とキノコ探しに熱が入り、景品のきのこグッズ等を昨年より多い16名分用意したにもかかわらず、不足するほどでした。今年は、キノコだけでなくキノコが着生した樹木や生育している森を見て、キノコを考えてみました。キノコがいかにか「木の子」であるか感じ取ってもらえたと思います。またコース途中の二ヶ所で大きなヒラタケに出会うことができ、子どもたちは大喜びでした。最後は「鑑定会」の必要がなかったため、バードウォッチングの「鳥合わせ」のように、当日観察できたキノコを確認する「キノコ合わせ」をして、キノコ観察会は今年も好評のうちに終了しました。また今年新たに「高良山系の晩秋から冬の主なキノコ」の「写真パネル」を作成し、昼食時に写真パネルを用いた解説を行いました。子どもたちはキノコにとっても興味を持ったようでした。さらに、ビンゴ用の「高良山系の晩秋から冬の主なキノコ一覧表」および「高良山系の晩秋から冬の主なキノコ解説」も全面改訂しました。残念だったことは、安全管理面および現地でのきのこ汁調達には限度があり、最終的に参加者を40名に絞り込まざるを得なくなったことです。60名の方々から問い合わせをいただきながら、後の20名の方をお断りせざるを得なくなり、大変心苦しく思いました。

心よりお詫び申し上げます。将来的には親子向けのファミリー企画と観察ボランティア養成企画など、内容面で分けることも検討すべきかもしれません。いずれにしろ、キノコ観察の人気の高さに比べて、キノコの指導者の不足、スタッフの不足が明白となり、課題を今後に残しました。

以下に当日観察できたキノコリストをあげます。

1	<i>Pleurotus ostreatus</i>	ヒラタケ(平茸)(広葉樹倒木)
2	<i>Mycena</i> sp	アシナガタケの近似種? (広葉樹林内)
3	<i>Xeromphalina campanella</i>	ヒメカバイロタケ(姫蒲色茸)(スギ倒木)
4	<i>Naematoloma fasciculare</i>	ニガクリタケ(苦栗茸)(スギ・広葉樹倒木)
5	<i>Lactarius gracilis</i>	アンボソチチタケ(足細乳茸)?(広葉樹林内)
6	<i>Xylobolus</i> sp.	カタウロコタケ属の一種 (広葉樹立ち枯れ)
7	<i>Xylobolus spectabilis</i>	モミジウロコタケ(紅葉鱗茸)(広葉樹倒木)
8	<i>Microporus</i> <i>labelliformis</i>	ウチワタケ(団扇茸)(広葉樹倒木)
9	<i>Oxyporus cuneatus</i>	ヒメシロカイメンタケ(姫白海綿茸)(スギ切株)
10	<i>Oligoporus tephroleucus</i>	オシロイタケ(白粉茸)? (スギ切株)
11	<i>Pycnoporus coccineus</i>	ヒイロタケ(緋色茸)(広葉樹倒木)
12	<i>Coriolus versicolor</i>	カワラタケ(瓦茸)(広葉樹倒木)
13	<i>Coriolus brevis</i>	ニクウスバタケ(肉薄歯茸) (広葉樹倒木)
14	<i>Lenzites betulina</i>	カイガラタケ(貝殻茸)(広葉樹倒木)
15	<i>Trichaptum biforme</i>	ハカワラタケ(歯瓦茸)(サクラ落枝)

16	<i>Daedaleopsis styracina</i>	エゴノキタケ (エゴノキ倒木)
17	<i>Daedaleopsis purpurea</i>	ミイロアマタケ (三色網茸) (広葉樹倒木)
18	<i>Truncospora ochroleuca</i>	ウズラタケ (鶉茸) (広葉樹落枝) 老菌
19	<i>Fomitopsis</i> sp.	クロサルノコシカケの近似種? (広葉樹倒木)
20	<i>Amauroderma rugosum</i>	コマタケ (独楽茸) (ブナ科林内地上) 老菌
21	<i>Elfvvingia applanata</i>	コフキサルノコシカケ (粉吹猿の腰掛) (広葉樹立ち木)
22	<i>Cyclomyces fuscus</i>	ワヒダタケ (輪襷茸) (広葉樹倒木)
23	<i>Scleroderma verrucosum</i>	ザラツキカタカワタケ (粗付硬皮茸)? (林内地上)
24	<i>Calostoma japonicum</i>	クチベニタケ (口紅茸) (路傍土崖)
25	<i>Lycoperdon pyriforme</i>	タヌキノチャブクロ (狸の茶袋) (腐木上)
26	<i>Auricularia polytricha</i>	アラゲキクラゲ (粗毛木耳) (広葉樹立ち枯れ)
27	<i>Exidia glandulosa</i>	ヒメキクラゲ (姫木耳) (広葉樹落枝)
28	<i>Ascocoryne cylichnium</i>	ムラサキゴムタケ (紫護謨茸) (スギ切株)
29	<i>Xylaria polymorpha</i>	マメザヤタケ (豆莢茸) (広葉樹立ち枯れ木の地際)
30	<i>Hypoxyylon truncatum</i>	クロコブタケ (黒瘤茸) (コナラ落枝)

そのほか、個人的に気づいたものとして、ムラサキシメジの近似種、フサヒメホウキタケ、スエヒロタケ、ツヤウチワタケ、オロシタケ、ニセキンカクアカビョウタケ、腹菌亜綱の1種 (シイカシ林内地上: 子実体は偏球形、ピンク色。オレンジ色の菌糸束あり。) がありました。

## 参加者感想

きのこの自然観察 田主丸町 野口空乃加

きこのこの自然観察 田主丸町 野口空乃加  
今日は、きのこを見つけてたのしかったです。こんなにきのこのしゅるいがあるなんてしらなかつたです。1番びっくりしたのは、スエヒロタケが人の体にもできるなんてびっくりしました。きをつけようと思います。思い出になるきのこのかんさつかいでした。このことを日記にかきたいです。

それにしらなかつたけどどくきのこ。たべれるきのこいろいろありました。きのこもいっぱいみつけてたのしかったです。らいねんもこようと思います。けしきもよかつたしそれにいろいろなきのこがあつたのしかったです。さいしょはきのこがりなんていやだと思つていたけどいろいろなきのこや木や友だちになつた男の子といっしょにあそんでたのしかったです。べんきょうになりました。先生にもかんしゃです。きのこにもたのしませてくれてありがとう。

それにおとうさんもいなかにかきたみたいと言つてました。

中学2年 遠山未名

今日は、毒きのことか、食べられるきのことかがわかつて、そうなんした時、やくにたちそうです。

中学2年 上田佳穂

きつかつたけどきのこのこととかよくわかつた。あと、ごはんと汁はおいしかつた。

中学2年 松野夏実

山は、何回もすべつて大変だつたけど、キノコのこといろいろ知れてよかつたです。お昼ごはん、さいこーでした。



写真パネルを用いたキノコの解説



## 第326回例会 総会記念講演会を聴いて

## 大木 武彦

今回は「無添加石けんと地球環境」というテーマで、まるは油脂化学(株)社長林眞一氏のお話をお聴きしました。まるは油脂化学さんでは、石鹸づくりに創業以来70余年「人と自然にやさしい石けんを」という先代からの精神を受け継ぎ、今も天然素材だけを使い、「釜だし」、「自然乾燥」という昔ながらの「杵練り製法」の石鹸づくりに取り組んでおられます。林社長さんは、完成までに90日という手間ひまかけた石鹸づくりは、すべてが機械化された現代には不似合いかもしれませんが、この手間ひまこそが皆さんの健康を保ち、地球環境を守る一助と信じていますと語られました。

石鹸素地は天然油脂100%で、色や香りも自然の成分を使用し、合成界面活性剤、合成着色料、酸化防止剤、保存料などは一切使用していないそうです。したがって使った後は成分が微生物により100%分解されて、海や川、自然界に戻っていくという環境にやさしい石けんということでした。

経営革新面では、農商工連携の(椿オイルの洗顔石鹸)や産学官連携の(石鹸塗装)などの新商品づくりにも挑戦されているそうです。プロジェクトによる映像を使った講話は大変有意義で興味深いものでした。

※講演会の写真を13ページに掲載

## 会員寄稿

## 上津バイパス通りの賑わい

## 安元 康時

私が平成4年、19年振りに熊本から南町に帰って来た頃の、今の通称「上津バイパス通り」一帯は田園でした。上津荒木川沿いにある七田原公園の碑には、「当時(平成元年以前頃)この辺りは水田地帯で、小川には小魚が群れをなし、田畑には菜の花や蓮華草が咲き乱れ、大空高く雲雀がさえずり、蝶やトンボ飛び交うのどかな田園風景に恵まれていた」とあります。

上津バイパスが、平成9年5月、国道209号線の野伏間から国道3号線の上津荒木まで1900メートルが開通し、さらに、平成18年6月、国道3号線の上津荒木から陸自第4特科連隊付近まで1110メートルが開通しました。なお、平成24年に、久留米インターまで全線開通する予定だそうです。そうなれば、久留米の交通事情も大きく変わることでしょう。

ところで、この地に、バイパス道路(片側2車線両側4車線)が、一本通っただけで、夜になると真っ暗闇になっ

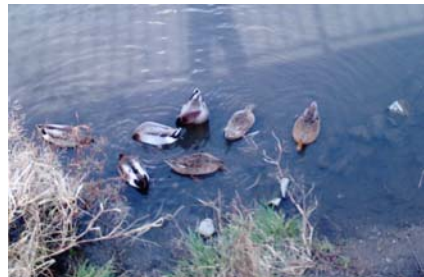
ていた、この一帯が、今では、店の明かりやネオンが輝き、車のヘッドライトの明かりがとぎれない街に、変貌してしまいました。

私の、昼の散歩コースの一つでもある、この通り3010メートルの両側とその付近には、上津支所、南消防署、公園数ヶ所、バス停数ヶ所、少年サッカー場、幼稚園、高齢者福祉施設数ヶ所、上津天然温泉、総合病院、内科、小児科、歯科、眼科、整形外科の各医院、葬祭場、住宅メーカーと展示場数ヶ所、厨房機器販売・工事店、各種保険取次店、銀行・貸金業のATM数ヶ所、郵便ポスト数ヶ所、JA支店、書店、古書店、CD販売・レンタル店数店、インターネットカフェ、ホームセンター、家電量販店、パソコン専門店、ケータイショップ



上津バイパス通り

ブ数店、カメラ販売店・写場、ゴルフ用具専門店、自転車販売店、紳士服店、服装店数店、靴屋数店、薬屋、眼鏡店数店、酒屋、クリーニング取次店、コインランドリー、ヘアメイク店、化粧品販売・美容指導店、エステ店、仏具店、ガソリンスタンド数店、コンビニ数店、スーパーマーケット数店、和・洋・中レストラン数店、回転寿司屋、焼き肉屋数店、ラーメン屋数店、焼き鳥屋、弁当屋数店、牛丼屋、うどん・そば屋数店、チャンポン屋、スパゲティ店、インド料理店、ハンバーガー店数店、ドーナツ店、コーヒーショップ、カラオケ店、ゲーム店と何でもあり駐車場も完備しているので、ここの住民は、市中心街や「ゆめタウン」などに



マガモ(桃太郎川)

行く必要をあまり感じていないようです。付近には、茸も採取出来る高良台地や、南に広がる田園、アヒルや小鮒などが回遊し、白鷺などの鳥類が飛来する、上津荒木川や桃太郎川など、程よく自然環境を残している。

この10数年来、いつの間にか、自然発生的に、市内でも最高の便利で快適なミニ田園都市、一大生活圏、高層ビルのない市街地になっていったのには、今更ながら驚くとともに、改めていい所に住んでいるのだな、という実感に浸っているところです。



## 平成21年度総会報告

日時：平成22年1月24日（日）14時 場所：久留米大学御井学舎メディアセンター

参加者数：10名

記念講演会：15時10分より

テーマ「無添加石けんと地球環境」講師：林眞一氏（まるは油脂化学株式会社社長）

司会：古賀信夫 議長：河内俊英

役員：会長：橋田沙弓 副会長：河内俊英 国分謙一 事務局：古賀信夫 宮原洋子（会計） 大木武彦 中野昭剛

会報編集：古賀信夫 橋田沙弓 大木武彦 丸山由紀子

幹事：丸山由紀子 角 正博 会計監査：野口勝司 高山美子 顧問：荒巻健二 松富士将和 名誉顧問：丹部竹志

## 第1号議案 活動報告 平成21年（2009年）

## 1、例会開催

月日	NO	内容	参加者数	備考
1月24日	366	総会記念講演会	22名	講師 山口淳氏 テーマ「久留米俘虜収容所～第一次世界大戦時のドイツ兵捕虜たち」
2月15日	367	草木染め	15名	講師 松藤洋子氏 えーるピア久留米
3月29日	368	筑後川春の野草を愉しむ会	約40名	くるめウス
5月10日	369	高良山バードウィーク探鳥会	26名	高良山四季の森 共催 日本野鳥の会筑後支部 久留米市生産流通課 福岡県朝倉農林事務所
6月28日	370	きのこの自然観察ときのこ汁会	9名	観察指導 金子周平氏 高良台演習場・松葉諏訪池周辺
7月20日	371	水辺の自然観察会と魚ツチング	17名	くるめウス 共催 筑後川まるごと博物館運営委員会
9月26日	372	筑後川観月会	50名	観察指導 中川元延氏 くるめウス
10月18日	373	ネイチャーゲームと自然観察会	14名	高良山四季の森 共催 くるめネイチャーゲームの会 久留米市生産流通課
11月8日	374	高良山・四季の森バードウォッチング ウィーク探鳥会	34名	高良山四季の森 共催 日本野鳥の会筑後支部 久留米市生産流通課
12月6日	375	高良山キノコ観察とキノコ汁会	40名	高良山四季の森 共催 久留米市生産流通課

## 2、会報「久留米の自然」発行

号数	発行年月日	表紙写真	ページ数
103	2009年1月1日	コウラカナワラビ	8ページ
104	2009年4月1日	サトウヤシ	14ページ
105	2009年7月1日	カスミサンショウウオ	8ページ
106	2009年10月1日	キアゲハと幼虫	8ページ

## 3、総会、会議等

月日	会議名	場 所
1月24日	平成21年総会	市役所301
2月4日	幹事会	西町教育集会所
3月4日	幹事会	西町教育集会所
4月1日	幹事会	西町教育集会所
5月6日	幹事会	西町教育集会所
6月3日	幹事会	西町教育集会所
7月1日	幹事会	西町教育集会所
9月2日	幹事会	山川コミセン
10月7日	幹事会	山川コミセン
11月4日	幹事会	山川コミセン
12月2日	幹事会	山川コミセン

## 4、懇親事業

1月24日 新年会 御井町「家庭料理 さつき」にて

## 5、出版事業

9月15日発行 米田 豊著「動物笑い話」新書版 122ページ

## 6、その他

4月18日 山川英毅幹事葬儀 橋田 松富士出席

7月25日 カスミサンショウウオ生息地清掃

9月20日 「動物笑い話」贈呈式 200冊を米田豊氏に贈呈

11月22日 森田公造名誉顧問葬儀 橋田 国分出席

## 7、他団体への協力

月 日	内 容	場 所
5月5日	ちびっ子天国 (木のおもちゃづくり)	鳥類センター
6月7日	環境フェア (木のおもちゃづくり)	百年公園
7月1日～31日	河川愛護月間展示発表	くるめウス
7月26日	こーら川探検隊	高良川下流
8月2日	第12回福岡県環境教育学会年大会 ポスターセッション展示発表	久留米大学
8月8日	こーら川探検隊	高良川下流
8月16日	こーら川探検隊	高良川上流
8月22日	こーら川探検隊	くるめウス
10月17日	チルドレン・キャンパス事業(高良川自然観察)	くるめウス
10月25日	チルドレン・キャンパス事業 (水質調査と野草料理)	くるめウス
11月23日	みどりのハイキング講師	高良山・兜山

**第2号議案 平成21年度収支決算報告承認の件、監査報告****2009年決算書**

## ☆収入

1、前期繰越 (現金=0、預金=78,288)		78,288
2、実収入		530,758
①会費 (現金=70,000、振込=86,000)	156,000	
平成19年分 (1人) =	2,000	
平成20年分 (8人) =	16,000	
平成21年分 (66人) =	132,000	
平成22年分 (3人) =	6,000	
②例会、行事費	39,500	
③読本代 (現金=138,500 振込=2,200)	140,700	
④カンパ他 (利子48円含む)	84,558	
⑤助成金	110,000	
収入合計		609,046

## ☆支出

1、会報作成		165,315
104号	46,815	
105号	36,000	
106号	36,000	
107号	46,500	
2、通信費		21,635
3、印刷、コピー費		4,012
4、動物笑い話 (印刷費)		180,600
5、事務局費		30,340
6、文具費		9,837
7、行事費		33,542
8、予備費		16,237
支出合計		461,518

## ☆差引残高

147,528

2010年1月20日

上記の通り相違ありません。 野口勝司 高山美子



## 第3号議案 平成22年度事業計画案承認の件

## 1、例会開催

月日	NO	内容	内容その他
1月24日	376	総会記念講演会	テーマ「無添加石けんと地球環境」 講師 林 眞一氏 場所 久留米大学御井学舎
2月14日	377	高良山探鳥会	共催 日本野鳥の会筑後支部 久留米市生産流通課
3月28日	378	筑後川春の野草を愉しむ会	共催 筑後川まるごと博物館運営委員会
4月29日	379	高良山樹木の名札付け	高良山南回り遊歩道コース
5月9日	380	高良山バードウィーク探鳥会	共催 日本野鳥の会筑後支部
6月27日	381	きのこの自然観察ときのこ汁会	場所 高良台演習場内・松葉諏訪池周辺
7月19日	382	水辺の自然観察会と魚ツチング	共催 筑後川まるごと博物館運営委員会
9月未定	383	筑後川観月会	共催 筑後川まるごと博物館運営委員会
10月17日	384	ネイチャーゲームと自然観察会	共催 くるめネイチャーゲームの会 久留米市生産流通課
11月14日	385	高良山・四季の森バードウォッチングウィーク探鳥会	共催 日本野鳥の会筑後支部 久留米市生産流通課
12月5日	386	高良山キノコ観察とキノコ汁会	共催 久留米市生産流通課

## 2、会報「久留米の自然」発行

号数	発行年月日	表紙写真	ページ数
107	2010年1月1日	打越丘陵	14ページ予定
108	2010年4月1日	カワウ	14ページ 予定
109	2010年7月1日	未定	8ページ予定
110	2010年10月1日	未定	8ページ予定

## 4、懇親事業

1月24日 新年会 御井町「家庭料理 さつき」にて

## 5、他団体への協力

月日	内 容	場 所
5月	ちびっ子天国 (木のおもちやづくり)	鳥類センター
6月	環境フェア (木のおもちやづくり)	百年公園
7月	河川愛護月間展示発表	くるめウス
	こーら川探検隊	高良川下流
8月	こーら川探検隊	高良川中流
	こーら川探検隊	高良川上流
	こーら川探検隊	くるめウスで
10月	チルドレン・キャンパス事業	くるめウス
11月	緑のハイキング講師	高良山：兜山

## 3、総会、会議等

月日	会議名	場 所
1月13日	幹事会	山川コミセン
1月24日	総会	久留米大学
2月3日	幹事会	山川コミセン
3月3日	幹事会	山川コミセン
4月7日	幹事会	山川コミセン
5月12日	幹事会	山川コミセン
6月2日	幹事会	山川コミセン
7月7日	幹事会	山川コミセン
9月1日	幹事会	山川コミセン
10月6日	幹事会	山川コミセン
11月10日	幹事会	山川コミセン
12月1日	幹事会	山川コミセン

**第4号議案 平成22年度収支予算案承認の件**

☆収入	
1、前期繰越	147,528
2、会費(80×@2,000)	160,000
3、例会参加費	30,000
4、本売り上げ	10,000
5、カンパ他	62,472
収入合計	500,000
☆支出	
1、会報作成(4×@36,000)	144,000
2、通信費	30,000
3、印刷・コピー代	5,000
4、文具代	10,000
5、事務局費	30,000
6、行事費	60,000
7、予備費	221,000
支出合計	500,000

**備品一覧**

デジタルカメラ(PENTAX K200D)、デジタルカメラ(NIKON CoolPix P5100)、双眼実体顕微鏡(NIKON ファーブル)、プロジェクター(ACER)、スクリーン、のぼり、野草料理調理用具一式、お茶会用具一式

**書籍在庫**

ひとつの川から見えるもの 230冊、動物笑い話 91冊

**記念講演会**

テーマ「無添加石けんと地球環境」講師：林眞一氏(まろは油脂化学株式会社社長)

参加者数：20名



講演する林社長



講演会の様子

## 《行事案内》

## ◇ 第379回例会：

## 高良山樹木の名札付けとだご汁会

みなさんで樹木に名札を付けてみませんか。だご汁も味わえますよ。

〔日 時〕：4月29日（木・昭和の日）小雨決行

〔集合・解散〕：9：30 御井小学校

14：30 高良大社境内解散

〔場所〕：高良大社境内から南周り遊歩道

〔参加費〕：200円 先着20名様

〔持ち物〕：マイカップ はし

## ◇ 第380回例会：

## 高良山バードウィーク探鳥会

高良山四季の森として整備された後谷コースや環境保全林の新緑の中で、オオルリやキビタキなどの美しいさえずりを楽しみませんか。

〔日 時〕：5月9日（日）雨天中止

〔集合・解散〕：9：30・14：30 高良内幼稚園

〔交通〕：西鉄バス高良内・竹の子行きで、

終点竹の子バス停下車、徒歩1分

〔持ち物〕：弁当、水筒、筆記用具、あれば双眼鏡

〔共 催〕：日本野鳥の会筑後支部、久留米市農政部生産流通課、県朝倉農林事務所

## ◇ 第381回例会：

## きのこ観察会ときのこ汁会

きのこの観察会、きのこ汁会を行います。指導は金子周平先生（県森林林業技術センター）です。

〔日 時〕：6月27日（日）小雨決行

〔集合・解散〕：9：30 上津小学校運動場横

14：30 現地解散

〔場 所〕：高良台松葉諏訪池周辺

〔持ち物〕：筆記用具、長袖、長ズボン、長靴

〔参加費〕：300円 先着20名様

## 久留米の自然

平成22年4月1日 第108号

発行 久留米の自然を守る会 発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0827 久留米市山本町豊田 2320-6

TEL 46-8622 FAX 46-8623 (古賀)

印刷 千年屋印刷 TEL 43-2400 FAX 43-2408

## 会員募集中

## 《事務局だより》

私は、2003年にこの会に入会し、8年目になりますが、今現在事務局の一員として微力ですが活動させて戴いています。

その中に色々な自然を守ると云う事に思い直された事が有ります。

中学校の時、昆虫採集のため野山を駆けめぐった時をふと思出す事が有ります。その頃の自然の昔と現在との変わり様はあまりに嘆かわしい思いがします。

一度破壊した自然はもとはには戻らないものです。私達は自然の美しさをもっと見直すべきではないでしょうか？小さい動植物は一生懸命生きて行こうとしています。

道路を作る様な工事は止めてほしいと思うのです。その道路のために廃棄物の不法投棄が多くなっているのです。

必要のないものは、作らない様に努力すべきではないでしょうか。

中野 昭剛

## 1. 会員異動

入会 吉富 巧 (久留米市)

## 2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙（口座番号01750-1-40114）に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いいたします。

## 3. 原稿募集

次号109号は平成22年7月1日発行予定です。原稿の〆切は6月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

## 4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会（定例）は原則として毎月第1水曜日の19：00～21：00まで、山川コミュニティセンターで行います。皆さんも気軽にご参加下さい。

（5月12日、6月2日、7月7日）

## 書籍のご案内

当会で発行しております下記の書籍についてはまだまだ在庫がありますので是非知人友人の方に紹介してください。

## ◎ ひとつの川から見えるのもの

A4版 約350ページオールカラー

定価 2000円

## ◎ 動物笑い話

新書版 約120ページ

非売品ですが御希望の方には500円でお分けいたします。